

環境の時代の新しい幼稚園・保育所 ドイツの園庭ビオトープ視察ツアー2009

視察企画 (財)日本生態系協会
後援 (社福)日本保育協会、(社)全国私立保育園連盟
協力 (株)ジャクエツ、(株)チャイルド本社、
ひかりのくに(株)、(株)メイト

2009年8月17日～8月23日の7日間、「環境の時代の新しい幼稚園・保育所 - ドイツの園庭ビオトープ視察ツアー2009」を実施しました。

ツアーには、幼稚園・保育所の設置者や保育者、研究者、学生など、全国各地から21名の方々が参加しました。

小さい頃からの自然とのふれあいが、豊かな感性や健康な体をはぐくみます。そのため、今、ドイツでは、日常的な自然とのふれあいを大切にしている幼稚園・保育所が増えています。そこで、今回のツアーでは、そのような幼稚園・保育所や支援機関など数カ所を視察してきました。子どもたちのアイデアを取り入れてつくられた園庭で、子どもたちが自分でやりたいこと見つけて、遊び、学ぶ姿が印象的でした。



ヤヌス・コルツァック幼稚園・保育所

子どもたちの多様な興味に応えられる空間とは何かを考えて、たどり着いた結論は、園庭に自然を取り入れることでした。

この園では、園庭を、子どもたちが四季を感じ、命の営みを感じる場として位置づけています。刺激に満ちた園庭で、子どもたちは毎日、さまざまな遊びを考え出しています。



ドイツ環境支援協会 ハノーファー地域事務所

1975年に設立されたNGOで、自然保護の普及啓発のため、自然の幼稚園・保育所に向けた支援を積極的に行っています。

「目を見たもの、体験したことを大切にする」というコンセプトのもと、自然と私たち人間とのつながりを気づかせる、さまざまなプログラムを提供しています。子どもたちは、こうしたプログラムを通じて、自然の素材からものをつくることの「大変さ」を知り、「達成感」を味わい、ものを大切にする気持ちを身につけていきます。



ヴィッテンバーガー幼稚園・保育所

園庭の中央には野草が生えた丘があり、子どもたちは力いっぱい走り回っています。丘の周りには、この地域に自然に生える低木の茂みがあります。そこで子どもたちは、かくれんぼをしたり、ひとり静かに遊んだりしています。

園庭で育つ木の実、子どもたちの大好物です。石で割って、満足そうにほおぼる子どもの姿が印象的でした。



AWO ツェレ幼稚園・保育所

地域の人たちからの寄付や、保護者の協力のもと、平坦で変化にとぼしかった園庭が、多様性にとんだ空間へと大きく変わりました。

保育者は、動物やキノコなど、子どもたちの関心が高いものを題材とした「テーマ学習」に熱心に取り組んでいました。園庭の環境が多様であることで、さまざまなテーマ学習が可能になっています。



アルフレッド・トプファー 自然保護アカデミー

自然保護活動を推進するための州政府環境省の機関です。子どもたちに「自然を大切にする心」や「自然があることの喜び」を伝えるために、保育者の研修や近隣の園への活動支援を行っています。施設内には、園庭をつくる際のお手本となる自然がたくさんあります。

本ツアーの参加者も、草原や森などで、子どもたちを対象に行われる自然体験プログラムを、体験しました。



アム・ジョーダン幼稚園

園庭の設計は、「かくれんぼができる場所がほしい」、「お花がいっぱいほしい」といった、子どもたちからのリクエストを取り入れながら行われました。造成時には、保護者のほかに、近隣の中学校の生徒たちも協力し、園の子どもたちと一緒に汗を流しました。今園庭では、年齢の垣根を越えて、大きい子、小さい子がひとつのグループになって一緒に遊んでいます



造成時は、近隣の中学校の生徒が園児をサポート。(アム・ジョーダン幼稚園提供資料より)



ハーブルク森の幼稚園

子どもたちは、雨風の強い日でない限り、毎日森へ出かけます。自然の森は、子どもたちにたくさんの遊びを提供します。子どもたちは、それぞれ自分の好きなことを見つけ、夢中になって遊びます。カエルを見つけた子どもは、そとつかまえて、近くにいた子どもに「見る？」と聞きながら一緒に観察します。自然の中で遊ぶことにより、子どもたちは、生きものと人、両方へのやさしさを身につけます。



ジョニ・ビルクホルツ幼稚園・保育所

自然いっぱいの園庭は、1ヘクタールの広さがあります。子どもたちは園庭にある危険をあらかじめ知らされており、イラクサなど、さわると痛い植物がある場所は避けて遊びます。

隣接する自然保護区にもなっている池では、子どもたちが水遊びや、魚とりを楽しみます。広くて自然豊かな園庭のあるこの園は、大変人気が高く、地域外からも入園希望者がやってきます。



+++ 視察を終えて +++

7日間という短い期間でしたが、本視察ツアーでは、子どもの自然体験を重要と考えて熱心に取り組む、たくさんのドイツの保育者や専門家の方々と出会うことができました。また園庭ビオトープはもちろん、園舎や教材などを通じた子どもたちへの配慮についても学ぶことができました。

今回、視察した園では、子どもたちのために、平らな園庭に起伏をつけて、自然の草地や、地域に自然に生える低木の茂みなどを中心とした園庭ビオトープをつくっていました。

子どもたちは、園庭ビオトープで、季節を感じ、バッタやテントウムシなどさまざまな命と出会い、またかくれんぼなどをしながら積極的に体を動かしていました。

保育者も、そうした子どもたちの様子をよく観察しています。園庭ビオトープで子どもたちが興味をもったことを上手にくみ取り、「テーマ学習」としてさらに深い学びへと導いていました。子どもの興味にあった、さまざまなテーマ学習を展開するためにも、多様な環境を有する園庭がとても大きな存在となっていました。

さまざまな園を視察する中で、多くの参加者より、「自然体験をたくさんしているドイツの子どもたちは、日本の子どもと比較し、『落ち着き』『ひとつのことへの集中力』『ものを分かち合う心』などがとても発達していることが実感できた」、「子どもたちの身近に自然が必要だということを感じることができた」などの感想が寄せられました。

私たちの協会では、これからも自然いっぱいの素晴らしい取り組みがご紹介できるように、ドイツをはじめ環境先進国の幼稚園や保育所の取り組みについて、情報の蓄積を行っていきます。ご要望があれば、個別に視察ツアーを企画しコーディネートすることも可能です。お気軽にご相談ください。



参加者のみなさん